



須江小だより

No.12

令和7年2月3日発行

二本のヒマラヤスギ

校長 佐々木 淳



校舎前に立つ二本のヒマラヤスギ（令和7年1月23日撮影）

須江小の二本のヒマラヤスギは、今から56年前の昭和43年、明治から数えて百年を記念して植えられました。学校はまだ木造校舎でした。昭和54年には今の新校舎が建てられましたが、ヒマラヤスギはそのまま成長を続けました。

ヒマラヤスギ（別名ヒマラヤシーダー）は、葉の形がスギに似ているので「スギ」と呼ばれますが、実は松の仲間です。寿命は三百年以上。高さは50m以上まで成長します。インドでは「神の樹」と呼ばれ、古くから神聖な木とされてきました。良い香りがして、気持ちを強くする力もあると言われています。

須江小のヒマラヤスギは校舎をはるかに超えるぐらい大きく成長し、暑い夏には大きな木陰を作り、子どもたちを暑さから守っています。今から45年前、校舎が木造から鉄筋コンクリートになっても、変わらず子どもたちを見守ってきました。

間もなく新しいプールや体育館がすべて完成し、新しい歴史を刻む須江小学校。二本のヒマラヤスギは、これからもずっと子どもたちを優しく見守ってくれることでしょう。